



F I B E R

The Society of Fiber Science and Technology, Japan

繊維学会誌

||| 繊維と工業 ||| Reviews and News

特集〈リハビリテーションを支える繊維2〉

||| 報 文 ||| Original Articles





和洋女子大学は、
平成26年度より新しい7学類へ生まれ変わります。

和洋女子大学

● 人文学群

国際学類 英語文化コミュニケーション専修 / 国際社会専修
日本文学文化学類 日本文学専修 / 日本語表現専修 / 書道専修 / 文化芸術専修
心理学類 心理学専修
こども発達学類 こども発達学専修

● 家政学群

服飾造形学類 服飾造形学専修
健康栄養学類 健康栄養学専修
家政福祉学類 家政福祉学専修

和洋女子大学大学院（男女共修）

● 人文科学研究科

英語文学専攻
日本文学専攻

● 総合生活研究科

総合生活専攻
（博士前期・後期課程）

【お問い合わせ先】 TEL: 047-371-1127
アドミッションセンター FAX: 047-371-1185



和洋女子大学
和洋女子大学大学院

〒272-8533 千葉県市川市国府台 2-3-1
<交通アクセス> 京成線 国府台駅より徒歩10分 / 北総線 矢切駅よりバス7分 / JR線 市川駅よりバス8分 / JR線 松戸駅よりバス20分

www.wayo.ac.jp

facebookでも大学の情報を発信しています。http://www.facebook.com/wayo.univ

Blue Energy

浸透圧発電 (PRO)

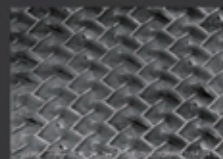
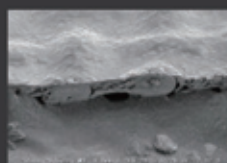
逆電気透析 (RED)



Blue Diamond

正浸透(FO)法

モザイク荷電膜

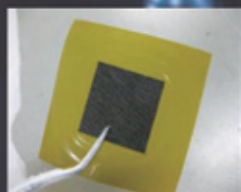


Green Technology

燃料電池

ガス分離膜

人工筋肉用ゲル



山口大学
大学院理工学研究科
比嘉研究室

人類が幸福に生きるためには環境をきれいにする技術と、環境にやさしいエネルギーが必要です。比嘉研究室では環境・エネルギー問題を解決するための機能性高分子に関する研究を行っています。

連絡先: 比嘉 充 〒755-8611 山口県宇部市常盤台2-16-1
山口大学 大学院理工学研究科 物質化学専攻 機能性高分子工学研究室
URL: <http://piano.chem.yamaguchi-u.ac.jp/>





伝統と革新から、新しい時代は創られる。

だからこそ、1933年の創業以来積み重ねてきた
私たちの歴史には、かけがえない価値があります。
高分子化学メーカーとして、化成品や樹脂、繊維などをはじめ
幅広い分野で挑戦を続ける私たちにとって過去は未来への道標。
今年、創業80年を迎えた三菱レイヨンは、
これまでも、これからも変わらずに、
人・社会・地球に新しい価値・KAITEKIを発信していきます。

 **三菱レイヨン**
<http://www.mrc.co.jp/>

伝統を紡ぐ、未来を編む。

Good **Chemistry** for Tomorrow

三菱ケミカルホールディングスグループ

繊維学会誌

平成 25 年 12 月 第 69 巻 第 12 号 通巻 第 813 号

目 次

繊維と工業(Reviews and News)

- 【時 評】 繊維加工研究委員会の 50 年の歩み 増子 富美 … P-411
- 【特 集】 〈リハビリテーションを支える繊維 2〉
- 車イス生活でのファッションライフ — 気軽に手頃に自分らしいオシャレを！
..... 又野亜希子 … P-412
- 障がい者はカッコイイ！ 天畠万貴子・堀口 桂子 … P-416
- 高齢または障害を配慮したおしゃれで体にやさしい衣服作りを教える学校としての取り組み
..... 浜西富美子 … P-421
- 「心と身体にやさしい衣服」の普及活動を通して決意したこと 栗田佐穂子 … P-429
- 衣類の悩み全般 — 困っていること、望み、工夫 小山万里子 … P-433
- 布とステッキの素敵な関係 — ステッキのおしゃれな世界 柳谷 廣之 … P-439
- 障害者から学ぶ — 「装いを楽しむこと」が人に及ぼす影響について 岩波 君代 … P-444
- 【繊維学会創立70周年記念連載】 〈技術が支えた日本の繊維産業—生産・販売・商品開発の歩み—4〉
- 戦前編Ⅲ、繊維機械の発明・改良 松下 義弘 … P-450
- 【議 事 録】 (一般社団法人)繊維学会第 651 回理事会議事録(抜粋) P-456

報 文(Original Articles)

- 【一般報文】 超臨界二酸化炭素によるさび染みの除去 兼田 諭・鋤柄佐千子・奥林 里子 … 235
- 綿繊維固定化塩化シアヌルの活性塩素の反応特性 柴田佐和子・上甲 恭平 … 240
- pH- and Thermo-induced Specific Permeability of Chiral Amino Acids through
the Peptide Grafted Poly(*N*-isopropylamide) Network Membrane
..... Meng Yu, Kenji Nagata, and Masahiro Higuchi … 245

Journal of the Society of Fiber Science and Technology, Japan

Vol. 69, No. 12 (December 2013)

Contents

[Reviews and News]

〈Foreword〉

Fifty Years of the Fiber Finishing Research Committee Fumi MASUKO ... P-411

〈Special Issue on Fibers for Rehabilitation 2〉

Fashion Life in a Wheelchair

– Fashion to Express Your Individuality, Easily, and Casually – Akiko MATANO ... P-412

Cool Persons with Special Needs Makiko TENBATA and Keiko HORIGUCHI ... P-416

The Fashion College Initiatives toward Making Fashionable and Comfortable Garments Considered

Elderly or Disabilities Fumiko HAMANISHI ... P-421

What I Decided in the Activities of Promoting Clothes for the People with Special Needs

..... Sahoko KURITA ... P-429

Problems in Clothes – Trouble, Hope, and Idea Mariko KOYAMA ... P-433

Great Relation between Cloth & Stick – Stick's Fashionable World –

..... Hiroyuki YANAGITANI ... P-439

Learn from People with Disabilities : Effects of Enjoying Fashion on Human Spirit

..... Kimiyo IWANAMI ... P-444

〈Series of Historical Reviews of Japanese Textile Industry Supported by the Technology

–History of the Production, Sales, and Product Development–4〉

PREWAR PART, III, Invention and Improvement of Textile Machines

..... Yoshihiro MATSUSHITA ... P-450

〈Minutes〉

Summary of 651st Sen'i Gakkai Board of Directors..... P-456

[Original Articles]

〈Transactions〉

A Removal of Rust Stain from Silk and Cotton Fabrics Using Supercritical Carbon Dioxide

..... Satoshi KANEDA, Sachiko SUKIGARA, and Satoko OKUBAYASHI ... 235

Reactivity of the Active Chlorine of Cyanuric Chloride Immobilized on Cotton Fibers

..... Sawako SHIBATA and Kyohei JOKO ... 240

pH- and Thermo-Induced Specific Permeability of Chiral Amino Acids through the Peptide Grafted

Poly(*N*-isopropylamide) Network Membrane

..... Meng YU, Kenji NAGATA, and Masahiro HIGUCHI ... 245

Sen'i Gakkaishi

(*Journal of the Society of Fiber Science and Technology, Japan*)

Vol.69 No.12

December 2013

CONTENTS OF ORIGINAL ARTICLES EDITION

[Transactions]

- A Removal of Rust Stain from Silk and Cotton Fabrics Using Supercritical Carbon Dioxide
..... Satoshi Kaneda, Sachiko Sukigara, and Satoko Okubayashi ... 235
- Reactivity of the Active Chlorine of Cyanuric Chloride Immobilized on Cotton Fibers
..... Sawako Shibata and Kyohei Joko ... 240
- pH- and Thermo-Induced Specific Permeability of Chiral Amino Acids through the Peptide Grafted
Poly(*N*-isopropylamide) Network Membrane
..... Meng Yu, Kenji Nagata, and Masahiro Higuchi ... 245

Published by

Sen'i Gakkai (The Society of Fiber Science and Technology, Japan)

3-3-9-208, Kami-osaki, Shinagawa-ku, Tokyo 141-0021, Japan

投稿時の体裁変更のお知らせ

これまで、投稿していただく際にカメラレディー形式に整えていただくことをお願いして参りましたが、今般印刷システムの見直しにより、カメラレディー形式での投稿は必須ではなくなりました。

テキストデータ、図表データを別々のファイルでご用意いただき、図表の差し込み位置が分かるように本文中に示していただければ、ベタ打ちで投稿いただけます。図、写真は jpeg 形式で、表はテキスト情報が抽出可能な word 等で作成してください。その際本文は A4 判に 10.5 から 12 ポイントのサイズで、改行幅は 1.5 行程度に設定してください。

また、図表のレイアウトや大きさなど著者の体裁上のご希望を予めお伝えいただけ、ページ数の見積もりも可能なため、これまで同様カメラレディー形式に整えていただいても結構です。カメラレディーひな形はホームページからダウンロードしていただけます。

投稿の際の負担を軽減することで、より迅速快適に研究成果をご発表いただけるようになりました。今後とも繊維学会誌への積極的なご投稿をお待ちしております。

報文フォーマット変更のお知らせ

平成 24 年 9 月号より、報文の紙面を下記の様に一部変更させていただきました。

1. 和文、英文とも、Corresponding Author を明示するようにしました。
2. 和文の著者名表示方法を英文に合わせ、所属は 1 ページ目左下に記すようにしました。

なお、学会 HP 掲載のファイルは既に新フォーマットに準拠しています。新規の御投稿にはなるべくこれを利用し、投稿カードと共にメール(hobun-submit@fiber.or.jp)に添付してご投稿ください。また、旧フォーマットで受理された原稿の場合、投稿カードの連絡先に記された方を Corresponding Author とさせていただきます。変更を希望される場合は、proof check の際に変更してください。

「報 文」編集委員

Sen' i Gakkaishi, Editorial Board

編集委員長 Editor in Chief	鬧 谷 要(和洋女子大学大学院) Kaname Katsuraya	編集副委員長 Vice-Editor	塩 谷 正 俊(東京工業大学大学院) Masatoshi Shioya
編集委員 Associate Editors	河 原 豊(群馬大学大学院) Yutaka Kawahara	木 村 邦 生(岡山大学大学院) Kunio Kimura	久保野 敦 史(静岡大学) Atsushi Kubono
	澤 渡 千 枝(静岡大学) Chie Sawatari	鋤 柄 佐千子(京都工芸繊維大学大学院) Sachiko Sukigara	高 寺 政 行(信州大学) Masayuki Takatera
	武 野 明 義(岐阜大学) Akiyoshi Takeno	趙 顯 或(釜山大学校) Hyun Hok Cho	登 阪 雅 聡(京都大学) Masatoshi Tosaka
	久 田 研 次(福井大学大学院) Kenji Hisada	菅 井 清 美(新潟県立大学) Kiyomi Sugai	山 根 秀 樹(京都工芸繊維大学大学院) Hideki Yamane
	吉 水 広 明(名古屋工業大学大学院) Hiroaki Yoshimizu	和 田 昌 久(東京大学大学院) Masahisa Wada	

The Society of Fiber Science and Technology, Japan (2012&2013)

President T. Hirai (Shinshu University)

Vice-President T. Hori (University of Fukui)

T. Kikutani (Tokyo Institute of Technology)

H. Hoshiro (Kuraray Co.,Ltd)

Member-promoting Officer H. Ogino (Tokyo University of Agriculture&Technology)

Editor "Sen'i to Kogyo" A. Tsuchida (Gifu University)

Treasurers S. Shoda (Tohoku University)

T. Nishimatsu (Shinshu University)

K. Tashiro (Toyota Technological Institute)

K. Miyazaki (University of Fukui)

Y. Tsujii (Kyoto University)

M. Higa (Yamaguchi University)

Planning Officers T. Kanaya (Kyoto University)

Y. Maeda (Toray Industries,inc)

M. Fukui (Asahikasei Fibers Corporation)

開催年月日	講演会・討論会等開催名(開催地)	掲載頁
26. 1. 14(火)	第139回講演会 多様化するバリアフィルム(東京都・タワーホール船堀)	A9
1. 18(土) 25(土)	平成25年度 アパレル製品の基礎知識講座(大阪市・大阪市立城北市民学習センター)	A8~9
1. 22(水)	アドバンテックセミナー2014 ポリマーブレンド・アロイの構造・物性制御(東京都・東京電業会館 地下ホール)	A10
1. 23(木)	2014学術ミキサー(大阪市・大阪市中央公会堂)	A3
1. 23(木)	第198回ゴム技術シンポジウム ゴムのトライボロジーの基礎から応用Ⅳ(東京都・東部ビル5階会議室)	A10
1. 27(月)	繊維学会被服科学研究委員会第174回被服科学研究委員会(さいたま市・オリオンレース工業(株))	A9
1. 31(金)	(独)科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業(ERATO)高原ソフト界面プロジェクト最終成果報告会(福岡市・九州大学西新プラザ)	A10
2. 7(金)	平成25年度「最新の繊維技術レビュー」講演会(東京都・キャンパス・イノベーション・センター国際会議室)	A7
2. 28(金)	第140回講演会 成形トラブル回避の第一歩、金型メンテナンスに注目(東京都・タワーホール船堀)	A9
6. 11(水) ~13(金)	平成26年度繊維学会年次大会(創立70周年記念大会)研究発表会・ポスター発表募集(東京都・タワーホール船堀)	A5~6
9. 28(日) ~10. 1(水)	繊維学会創立70周年記念事業 International Symposium on Fiber Science and Technology 2014 (ISF2014) 繊維の科学と技術に関する国際シンポジウム2014(東京都・ビッグサイト東京ファッションタウン(TFT)ホール)	A4
	繊維学会誌広告掲載募集要領・広告掲載申込書	平成22年6月号
	繊維学会定款(平成24年4月1日改訂)	平成24年3月号
	Individual Membership Application Form	平成24年12月号
	訂正・変更届用紙	平成24年12月号
	繊維学会誌報文投稿規定(平成24年1月1日改訂)	平成25年1月号
	繊維学会入会申込書(正・学生会員用)	平成25年10月号
	繊維学会入会申込書(維持・賛助会員用)	平成25年11月号

「繊維と工業」編集委員

編集委員長 土田 亮(岐阜大学)

編集副委員長 髯谷 要(和洋女子大学大学院) 出口 潤子(旭化成せんい(株))

編集委員 植野 彰文(KBセーレン(株)) 大島 直久(東海染工(株)) 金 翼水(信州大学) 澤田 和也(大阪成蹊短期大学)
高瀬 栄一(三菱レイヨン(株)) 高崎 緑(宮城教育大) 寺本 喜彦(東洋紡(株)) 中西 輝薫(エニチカトレーディング(株))
西田 幸次(京都大学化学研究所) 増田 正人(東レ(株)) 村上 泰(信州大学) 八重田 徹(王子ホールディングス(株))
山田 秀夫(帝人(株))

顧問 浅井 恒雄(科学技術ジャーナリスト) 浦川 宏(京都工芸繊維大学大学院)

平成25年度繊維学会主要行事予定

行 事 名	開 催 日	開 催 場 所
学術ミキサー	平成26年 1 月23日(木)	大阪市中央公会堂／小集会室
最新の繊維技術レビュー	平成26年 2 月 7 日(金)	CIC 田町(国際会議室)
学会賞各賞選考委員会	平成26年 2 月 8 日(土)	CIC 田町

平成26年度繊維学会主要行事予定

行 事 名	開 催 日	開 催 場 所
平成26年度年次大会	平成26年 6 月11日(水)～13日(金)	タワーホール船堀(東京)
創立 70 周年記念事業 (式典・国際シンポジウム)	平成26年 9 月28日(日)～10月 1 日(水)	ビッグサイト東京ファッションタウン TFT ホール(東京・有明)

繊維学会は、平成 25 年 12 月 10 日に 創立 70 周年を迎えます。

(一社)繊維学会は、繊維素協会と繊維工業学会が合併して、昭和 18 年(1943 年)12 月 10 日に設立され、平成 25 年(2013 年)12 月 10 日に創立 70 周年を迎えます。これを記念して、平成 26 年 9 月 28 日(日)から 10 月 1 日(水)にかけて次のような記念事業を、会員の皆様の募金を財源の中心にして実施いたします。記念事業の内容の詳細は、今後逐次学会誌でもご案内いたします。

1. 英文電子書籍の出版(平成 26 年 9 月ごろ)
 2. 繊維学会誌 創立 70 周年記念特集号の発行(平成 26 年 9 月)
 3. 記念式典・記念講演会・祝賀会
平成 26 年 9 月 28 日(日)
 4. ISF2014(International Symposium on Fiber Science and Technology 2014)
(繊維の科学と技術に関する国際シンポジウム 2014)(日本化学繊維協会と共催)
平成26年 9 月28日(日) ウェルカムレセプション
平成26年 9 月29日(月) 一般セッション、特別セッション
平成26年 9 月30日(火) 一般セッション、特別セッション
平成26年10月 1 日(水) 第 2 回先端繊維素材シンポジウム
一般セッション、特別セッション
 5. 新繊維技術展示会(企業・研究機関等の出展) (日本化学繊維協会と共催)
平成26年 9 月29日(月)～10月 1 日(水)
 6. ファッションショー (文化学園大学と共催)
平成26年 9 月30日(火)
- 3、4、5、6 は、ビッグサイト東京ファッションタウンホール(東京都江東区有明)にて開催。

創立70周年記念事業募金状況の中間報告

(平成 25 年 11 月 23 日現在の寄付金)

寄 付 数	口 数	金 額
個 人	161 名	921 口
企業・団体	27 団体	85 口
	188 件	
		8,858,000 円

(目標金額 12,000,000 円)

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、公益法人日本複製権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の方でない限り、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル
(中法)学術著作権協会

TEL: 03-3475-5618, FAX: 03-3475-5619

E-mail: info@jaacc.jp

著作物の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Phone: 1-978-750-8400 FAX: 1-978-646-8600

「2014 学術ミキサー」のご案内

企画委員長 保 城 秀 樹
実行委員長 井 上 真 理

繊維学会では新年を迎えるに当たりまして、「2014 学術ミキサー」を大阪にて開催させていただきます。ご承知のとおり、ここ 10 数年の繊維業界を取り巻く環境は、ますます産官学の連携並びに協力がより重要な時代となっており、

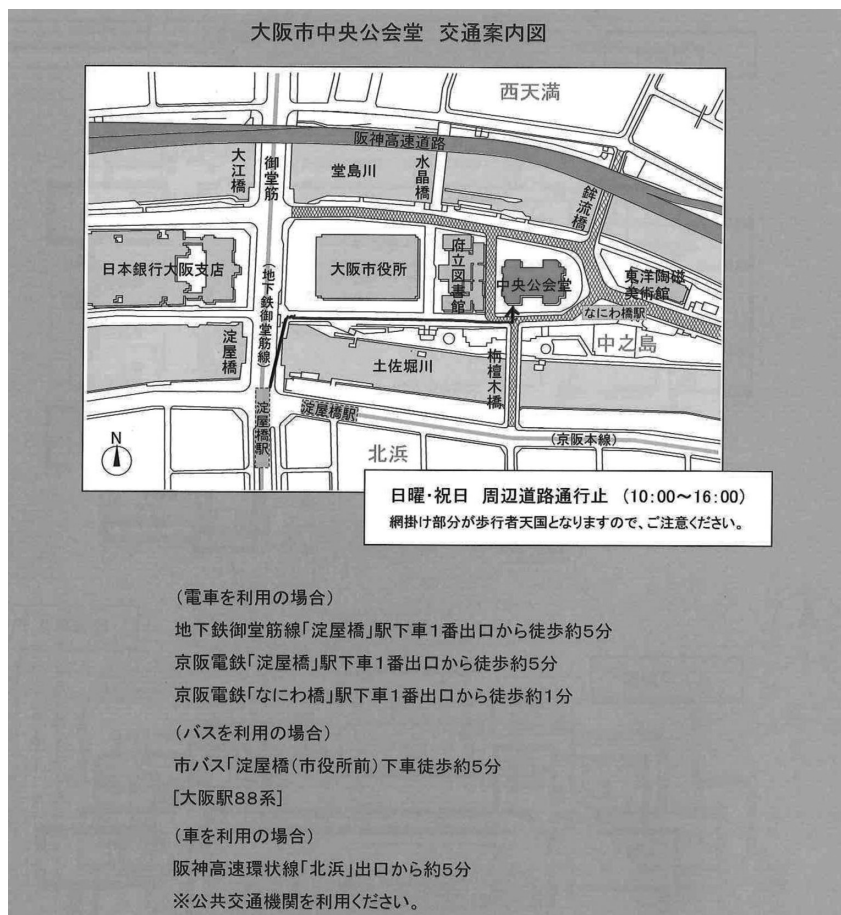
このような中、平素よりご支援、ご指導を頂いております大学、研究機関、企業並びに関連団体の方々との間で情報交換をしていただきながら、繊維関連の学術と産業について今後を展望したいと存じます。

つきましては、皆様のご出席を賜りますようよろしくお願い致します。

また、平成 26 年 9 月に開催します繊維学会創立 70 周年記念事業の内容などについてもご説明させて頂ければと思っています。

主 催：(一社)繊維学会
協 賛：(一社)日本繊維機械学会、(一社)日本繊維製品消費科学会
日 時：平成 26 年 1 月 23 日(木) 12:00~14:00(2 時間)
(11:20 から受付開始)
会 場：大阪市中心公会堂 3 階 小集会室
(大阪市北区中之島 1-1-27)
内 容：講 演 京都工芸繊維大学 学長 古 山 正 雄
参加費：3,000 円 (当日、受付にてお支払いください)
(賀詞交歓会を兼ねた懇談会を予定しています)

参加申し込みは、平成 25 年 12 月 24 日までに FAX またはメールにて繊維学会事務局までご連絡ください。



- * 中央公会堂小集会室へは、矢印で B1 レストランの西階段から入り、EV-4 エレベーターで 3 階まで上がってください。
- * 専用駐車場がありませんので、ご出席の方は電車をお願いします。

繊維学会創立 70 周年記念事業
International Symposium on Fiber Science and Technology 2014(ISF2014)
繊維の科学と技術に関する国際シンポジウム 2014

開催案内と発表募集

一般社団法人繊維学会では、その創立 70 周年記念事業の一環として、国際会議を開催します。本会議は、繊維の科学と技術に関わる研究者・専門家を世界中から幅広く集めて開催されます。繊維の科学と技術に関する研究は急速に発展しております。繊維やテキスタイルの基礎研究のみならず、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、インフォメーションテクノロジーを始めとする境界領域の研究も繊維科学・技術分野と深い関わりを持っています。この ISF2014 を開催する目的は、当該分野に係る世界中の人々が集い、最新の研究成果を発表し、情報の交換を行う場を提供することにあります。

日本のなかで繊維産業の規模は縮小傾向にあるとはいえ、当該分野の日本の高い技術力、研究開発能力は世界が認めるところであり、本国際会議が世界から大きな注目を集めることに疑問の余地はありません。現在の日本の立ち位置を確認し、将来のさらなる発展に向けた方向性を見出すためにも、また、世界に向けて日本の実力を発信するためにも、ISF2014 の開催は極めて意義深いものと考えられます。

開催地として東京都有明にあるビッグサイト東京ファッションタウンホールを選びました。日本の中心東京で発展を続ける臨海都市での開催も、特に海外からの参加者にとって魅力あるものに違いありません。皆様の積極的な発表申込をお願い致します。

主 催：一般社団法人 繊維学会

共 催：日本化学繊維協会

協 賛：日本繊維機械学会、日本繊維製品消費科学会

日 時：平成 26 年 9 月 28 日(日)～10 月 1 日(水)

場 所：ビッグサイト東京ファッションタウン(TFT)ホール
〒135-8071 東京都江東区有明 3-6-11

内 容：基調講演、招待講演、口頭発表およびポスター発表
一般セッション

G1 Fibers and Polymer Materials

G2 Fiber and Textile Processing

G3 Dyeing, Finishing, Coating and Laminating

G4 Textile Science and Engineering

G5 Fashion and Clothing Science

特別セッション

S1 Advanced Fiber Symposium

S2 Symposium on Dyeing and Finishing of Textiles

S3 Flow & Deformation Induced Polymer Crystallization

S4 Smart Textiles / Nanofibers

S5 Bio-Based and Biomedical Materials

S6 Composites and Industrial Textiles

※詳細については公式ホームページ <http://www.procomu.jp/isf2014> をご覧ください。

重要な締切日＊

平成 26 年 1 月 14 日 発表申込・Abstract 提出締切

平成 26 年 4 月 14 日 発表申込受理通知発送

平成 26 年 7 月 14 日 事前参加登録締切

Extended Abstract 提出締切

使用言語：英語

発表申込および Abstract 提出：下記公式ホームページ上から発表申込・提出することができます。

<http://www.procomu.jp/isf2014>

発表申込方法など詳細情報は、ホームページ上に掲載されております。

問合せ先：ご不明の点は、ISF2014 事務局へお問い合わせください。

ISF2014 事務局

E-mail: isf2014@fiber.or.jp

担当：松本 英俊 (ISF2014 Secretary General、東京工業大学)

山本 恵美 (繊維学会事務局)

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-9-208

一般社団法人 繊維学会内

**平成 26 年度繊維学会年次大会
(創立 70 周年記念大会)
研究発表会・ポスター 発表募集**

1. 日 時：平成 26 年 6 月 11 日(水)～13 日(金)
2. 会 場：タワーホール船堀(江戸川区総合区民ホール)
〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1
TEL:03-5676-2211 FAX:03-5676-2501
<http://www.towerhall.jp/>
〈交通〉都営地下鉄新宿線船堀駅下車北口徒歩 30 秒



3. 開催概要

繊維学会は、平成 25 年 12 月に創立 70 周年を迎え、26 年度には様々な記念事業を開催します。それに合わせて本年次大会に創立 70 周年記念企画を準備します。また、創立 70 周年を機に、特に若手研究者の活躍を積極的に支援したく、「若手優秀発表賞」を拡充します。会員の皆様には、最新の研究成果に関する発表と討論の場、ネットワークを広げる場に本年次大会を積極的にご活用ください。

4. 発表分野：プログラム編成にあたり、発表内容を加味して、分野変更や分野統合などを行う可能性があります。予めご了承ください。

- [1. 繊維・高分子材料の創製] 1a 新素材合成、1b 素材変換・化学修飾、1c 無機素材・無機ナノファイバー・有機無機複合素材
- [2. 繊維・高分子材料の機能] 2a オプティクス・フォトンクス、2b エレクトロニクス、2c イオニクス、2d 機能膜の基礎と応用、2e 接着・界面/表面機能、2f 耐熱性・難燃性
- [3. 繊維・高分子材料の物理] 3a 結晶・非晶・高次構造、3b 繊維・フィルムの構造と物性、3c 複合材料の構造と物性
- [4. 成形・加工・紡糸] 4a ナノファイバー、4b 繊維・フィルム、4c 複合材料・多孔体、4d 染色・機能加工
- [5. ソフトマテリアル] 5a 液晶、5b コロイド・ラテックス、5c ゲル・エラストマー、5d ブレンド・ミクロ相分離、5e その他ソフトマテリアル
- [6. 天然繊維・生体高分子] 6a 紙・パルプ、6b 天然材料・ナノファイバー、6c 生分解性材料、6d バイオポリマー、6e バイオマス
- [7. バイオ・メディカルマテリアル] 7a 生体材料・医用高分子材料
- [8. テキスタイルサイエンス] 8a 紡織・テキスタイル工学、8b 消費科学、8c 感性計測・評価
- [9. 感性(特別セッション)] 9a 評価、9b ファッション、9c デザイン、9d マーケティング

5. 研究発表募集部門：次の 2 部門で発表を募集します。

部門 A [口頭発表：一般「A1」または若手「A2」] (討論 5 分を含んで発表時間 20 分)

部門 P [ポスター発表：一般「P1」または若手「P2」]

発表分野について、一般、若手いずれの場合も、部門番号(A1、A2、P1、P2)の後に上記 4 に示した細目セッション番号を連続させて、たとえば「A1-5d」、「P2-6b」のように選択してください。

なお、A2 ならびに P2 は優秀発表賞の審査対象部門で、応募資格は以下のとおりです。優秀発表賞表彰はワインパーティーで行います。

A2：平成 26 年 6 月 1 日現在で 40 歳未満の学会員

P2：平成 25 年 6 月 1 日現在で博士号を持たない 30 歳未満の学会員

6. 発表申込方法と締切期日

発表申込/予稿集原稿はいずれも学会 Web サイト(<http://www.fiber.or.jp>)「繊維学会年次大会」のページで発表1件ごとに登録/投稿していただきます。メール・FAX による受付は行いません。受付開始～締切は、下記のとおりです。

発 表 申 込：平成25.12.9(月)～平成26.1.31(金) 17 時

予稿原稿投稿：平成26.3.10(月)～平成26.4.4(金) 17 時

(注意)締切直前は WEB が込み合いますので、早めの申込を推奨します。また、締切期限を過ぎますと自動的に WEB が閉鎖され、以後は受け付けられなくなります。発表申し込みに関する要望・問い合わせは、学会事務局へお願いします。

7. 発表方法：

口頭発表：液晶プロジェクターが準備されています。パソコンは発表者自身をご持参ください。OHP、スライドを用いる場合は、あらかじめご連絡いただき、OHP ないしスライドプロジェクターは発表者自身をご持参ください。

ポスター：縦 180cm 横 120cm 高さ 190cm のポスターボードに掲示ください。掲示場所が不足する場合は別途ご案内します。

8. その他：不測の事態(インフルエンザ流行等)が生じた場合は、WEB 上で告知することをご承知おきください。

ご不明の点は、学会事務局(TEL:03-3441-5627 FAX:03-3441-3260 E-mail:office@fiber.or.jp)にお問い合わせください。

平成 26 年度繊維学会年次大会実行委員会

実行委員長：辻井敬亘(京大)

実行副委員長：浦川 宏(京工繊大)、戸木田雅利(東工大)、堀口智之(東レ(株))

実行委員：荒木 潤(信州大)、井上真理(神戸大)、井上倫太郎(京大)、木村邦生(岡山大)、久保野敦史(静岡大)、黒子弘道(奈良女子大)、小椎尾謙(長崎大)、澤田和也(大阪成蹊短大)、斉藤 拓(東農工大)、斉藤雅春(KB セーレン(株))、榊原圭太(京大)、竹中幹人(京大)、武野明義(岐阜大)、徳山孝子(神戸松蔭女子学院大)、中村寿美(旭化成せんい(株))、西尾俊幸(ユニチカ(株))、橋本朋子(奈良女子大)、久田研二(福井大)、松葉 豪(山形大)、村瀬浩貴(東洋紡(株))、森島一博(帝人(株))、山口俊朗(株クラレ)、山根秀樹(京工繊大)、野々村弘人・山本恵美(学会事務局)

平成 25 年度「最新の繊維技術レビュー」講演会

繊維学会の最新の繊維技術レビュー講演会は、国内の化繊メーカーが開発した新規素材を紹介する『最新の化繊メーカー技術』と全国で匠の独自技術を駆使して開発した繊維製品を紹介する『日本を支える独自技術』の二部に分けて講演を予定しております。今回は、経済産業省繊維課の渡邊宏和課長代理様より『成長戦略が求める繊維技術(仮称)』を招待講演として予定しております。今後の繊維業界を支える未来技術の動向を知るには絶好の機会と存じますので、繊維業界のみならず、異業種の方々も多数のご参加をお願いいたします。また、名刺交換会を予定しておりますので、産官学の情報交換の場としても是非、ご参加ください。

主 催：一般社団法人 繊維学会

日 時：平成 26 年 2 月 7 日(金) 9:20～16:20

場 所：キャンパス・イノベーション・センター国際会議室(東京都港区芝浦 3-3-6)

〈交通〉JR 山手線・京浜東北線 田町駅(徒歩 1 分)、都営三田線・浅草線三田駅(徒歩 5 分)

プログラム：

(招待講演)

(1) 9:20～10:00 成長戦略が求める繊維技術(仮称) 経済産業省製造産業局繊維課 課長代理 渡邊 宏和

(第 1 部：最新の化繊メーカー技術)

(2) 10:00～10:40 たて型不織布“エルク”の開発と用途展開(予定) 帝人(株)(予定)

(3) 10:40～11:20 ベンベルグ新商品“デュオ”(予定) 旭化成せんい(株)(予定)

(4) 11:20～12:00 部屋干し対応素材：ボンネル TMAg 三菱レイヨン(株)大竹研究所 御宮知直樹

12:00～12:50 - 昼食休憩 -

(第 2 部：日本を支える独自技術)

(5) 12:50～13:30 徳島県の企業さま(現在交渉中)

(6) 13:30～14:10 福井県の企業さま(現在交渉中)

(7) 14:10～14:50 繊維間に空隙をもたせた高吸水タオル“エアークアール”(仮) 浅野撚糸(株)代表取締役 浅野 雅己

14:50～15:00 - 休 憩 -

(8) 15:00～15:40 富山県の企業さま(現在交渉中)

(9) 15:40～16:20 東京都の企業さま(現在交渉中)

講演会終了後に名刺交換会を予定しています。

定 員：100 名(定員になり次第締め切らせていただきます)

参加費：正会員・企業会員(含む維持・賛助会員)：17,000 円 企業非会員：20,000 円

大学官公庁関係会員：12,000 円 大学官公庁非会員：16,000 円

学生会員：5,000 円 学生非会員：7,000 円

申し込み：参加申し込みはホームページの最新の繊維技術レビューからお願いします。

参加費は銀行振込みでお支払いください。振り込み手数料は振込人にてご負担ください。

銀行の領収書をもって本会からの領収書に代えさせていただきます。

(みずほ銀行 目黒支店 普通口座 1894348 繊維学会講演会)

領収書の必要な方は事前にご連絡ください。

問合せ先：〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-9-208

(一社)繊維学会 TEL:03-3441-5627 FAX:03-3441-3260

E-mail: office@fiber.or.jp ホームページ: <http://www.fiber.or.jp/>

平成 25 年度 アパレル製品の基礎知識講座

一般社団法人 日本繊維技術士センター(JTCC)

日本繊維技術士センター(JTCC)では、各種の繊維や縫製技術に関する講座を定例的に実施し、多くの方にご参加いただいて、好評を博しております。今年度も下記要領にて「アパレル製品の基礎知識」講習会を開催しますので、多数の方々に参加いただきますようにご案内申し上げます。

講座の主旨

縫製やアパレル製品に関連する営業、企画、生産管理、技術、試験、品質管理、クリーニングなどに携わる皆さまに、アパレル製品に関する基礎的かつ実用的な知識を習得して、業務に役立てていただく。

講座の主な内容

以下の項目に関し、JTCC で作成するテキストをベースにして講義を行い、また適宜サンプルや写真を用いて解説します。講師は、JTCC 所属の各専門分野の技術士が担当します。

- I. アパレル製品の商品化プロセス
 - ①アパレルの商品企画からマーキングまでの流れと要点
 - ②副資材(裏地、芯地)
- II. 縫製仕様書
 - ①縫製仕様書とは
 - ②縫製仕様書のみかたと注意点
- III. 縫製工程の概要(ニット縫製および無縫製技術も含む)
 - ①縫製準備工程
 - ②縫製工程と仕上げ工程
- IV. 代表的な縫製欠点
 - ①縫製欠点の種類
 - ②発生原因と処置・対策
- V. 繊維製品の品質確認方法
 - ①衣服材料の試験と検査
 - ②アパレル製品の試験と検査
- VI. 表示等の関連法規
 - ①家庭用品品質表示法(繊維の組成、取扱い絵表示、はっ水)
 - ②サイズ表示(日本工業規格)
 - ③不当景品類及び不当表示防止法(機能性表示、原産国表示)
 - ④薬事法
 - ⑤各種不適正表示に関する質疑応答
- VII. 中国関連情報
 - ①中国の品質関連情報
 - ②中国の安全技術要求
 - ③中国の輸出入における検査
- VIII. 苦情事例解析編
 - ①消費者苦情品の事例研究
(4~5 名/班に分かれて原因、再現試験方法、再発防止のための予防・是正処置を討論)
 - ②班毎の発表と質疑応答および事例解説

スケジュール

平成 26 年 1 月 18 日(土)

9:45~ 9:55	はじめに	松原 富夫
9:55~11:25	I. アパレル製品の商品化プロセス	相馬 成男
11:30~12:10	II. 縫製仕様書 III. 縫製工程の概要(1)	米田 圭子
12:55~13:55	III. 縫製工程の概要(2)	米田 圭子
13:55~14:50	IV. 代表的な縫製欠点	米田 圭子
15:00~16:50	V. 繊維製品の品質確認方法	金田 哲郎

平成 26 年 1 月 25 日(土)

9:30~10:45 VI. 表示等の関連法規

清嶋 展弘

10:55~12:00 VII. 中国関連情報

上田 良行

13:00~16:50 VIII. 衣料品の苦情事例解析

上田 良行・金田 哲郎・清嶋 展弘・米田 圭子

「アパレル製品の基礎知識」講座 講師プロフィール(平成 25 年度)

講 師

上田 良行 岡本(株) 品質保証室 室長 元 (株)ワコール 品質保証推進部 JTCC 評議員 TES 会員

金田 哲郎 (一財)日本繊維製品品質技術センター(QTEC) 元(株)ワコール JTCC 評議員 TES 会員

清嶋 展弘 (株)デサント ロジスティクス統括部開発部品質管理課 部長役 JTCC 評議員 TES 会員

相馬 成男 元(株)レナウン 生産部技術グループ JTCC 評議員 TES 会員

米田 圭子 元旭化成せんい(株) ライニング研究所 JTCC 評議員 TES 会員 (50 音順)

場 所

大阪市立城北市民学習センター 第 1 研修室

〒535-0031 大阪市旭区高殿 6 丁目 14 番 6 号 TEL:06-6951-1324 FAX:06-6951-1304

受講料 ¥21,000-(含む消費税)

定 員 50 名

問合せ先

〒564-0062 吹田市垂水町 3 丁目 7 番 18 号 P&M ビル 2F 一般社団法人 日本繊維技術士センター(JTCC)

TEL:06-6339-1237 FAX:06-6339-0337 ホームページ: <http://homepage3.nifty.com/jtcc/>

繊維学会被服科学研究委員会 第 174 回被服科学研究委員会

第 174 回の研究会は、協和レース(株)の藤井良史氏よりレースについてのお話をうかがい、その後、オリオンレース工業(株)の工場見学を下記の通りおこないますので、ご出席くださいますようお願いいたします。

日 時: 2014 年 1 月 27 日(月) 14:00~16:30

場 所: 埼玉県さいたま市北区日進町 3 丁目 148

オリオンレース工業(株)

TEL:048-664-6166

集 合: 高崎線宮原駅(上野駅から約 35 分)改札口 13:30

講 演: 14:00~15:30 「レースの現状」

協和レース(株) 藤井良史氏

見 学: 15:30~16:30 オリオンレース工業(株)工場

定 員: 20 名(定員になりましたら締め切ります)

尚、委員会終了後、参加者の交流会(17:00~19:00)

を予定しています。

会 場: 未定

*交流会参加希望の有無も含めて、1 月 10 日までに下記へお申し込みください。

申込先: 平井郁子(Ikuko Hirai)大妻女子大学

繊維消費科学研究室

TEL&FAX:03-5275-6022

E-mail: i-hirai@otsuma.ac.jp

第 139 回講演会 多様化するバリアフィルム

主 催: (一社)プラスチック成形加工学会

日 時: 平成 26 年 1 月 14 日(火)

場 所: タワーホール船堀 4F 研修室(江戸川区船堀 4-1-1)

プログラム:

・複雑化するバリアフィルムとその透過挙動

信州大学 平田雄一

・透明バリアフィルム(仮) 凸版印刷(株) 渡辺二郎

・有機 EL 用バリアフィルム(仮) 山形大学 古川忠宏

・無機二元蒸着バリアフィルム 東洋紡(株) 小林正典

・ハイバリア PET ボトルの新規用途開発

三菱樹脂(株) 鮫島拓也

・有機/無機ハイバリアフィルムの特性について

富士フイルム(株) 藤縄 淳

第 140 回講演会 成形トラブル回避 の第一歩、金型メンテナンスに注目

主 催: (一社)プラスチック成形加工学会

日 時: 平成 26 年 2 月 28 日(金)

場 所: タワーホール船堀 2F 桃源(江戸川区船堀 4-1-1)

プログラム:

・射出成形金型メンテナンスのノウハウ概論

青葉技術士事務所 青葉 堯

・表面性状パラメータと離形(仮)

岩手大学 内館道正

- ・ PVD 被覆プラスチック金型の離形性評価について
(株)北熱 政 誠一
- ・ 金型成形トラブル解決のための表面処理(仮)
(株)不二製作所 大石隆夫
- ・ 金型材料とメンテナンスについて
日立金属(株) 遠山文夫
- ・ ガス抜き常識は非常識？
(株)斎藤金型製作所 斎藤輝彦

問合せ先：(一社)プラスチック成形加工学会 事務局
(品川区大崎 5-8-5 グリーンプラザ五反田第 2
205)
TEL: 03-5436-3822 FAX: 03-3779-9698

アドバンテックセミナー 2014 ポリマーブレンド・アロイの構造・物性制御

主 催：(一社)日本ゴム協会関東支部
日 時：平成 26 年 1 月 22 日(水) 10:15~16:55
場 所：東京電業会館 地下ホール(港区元赤坂 1-7-8)
プログラム：
・ ポリマーアロイによるポリマーの高機能化
帝人(株) 弘中克彦
・ 混練・分散技術によるポリマーアロイの構造・物性制御
住友化学(株) 森富 悟
・ 水添スチレン系ブロック共重合体ブレンドの構造と物性
旭化成ケミカルズ(株) 荒木祥文
・ 動的架橋型熱可塑性エラストマーの構造と力学物性
JSR (株) 鼎 健太郎
・ 準希薄溶液中で高屈折率差を有するブロック共重合体
とそのフォトニック結晶への応用
名古屋工業大学 岡本 茂

第 198 回ゴム技術シンポジウム ゴムのトライボロジーの基礎から応用Ⅳ

主 催：日本ゴム協会 研究部会 トライボロジー研究分
科会

日 時：平成 26 年 1 月 23 日(木) 10:00~16:15
場 所：東部ビル 5 階会議室(港区元赤坂 1-5-26)

プログラム：
・ ゴム摩擦・摩耗の基礎 金沢大学 岩井智昭
・ 高圧水素ガスシール用ゴム材料 九州大学 西村 伸
・ ゴムの摩擦・摩耗試験と最近の動向
バンドー化学(株) 和田法明
・ タイヤの摩耗力学に関する研究を振り返って
工学院大学 中島幸雄
・ 摩擦中のゴムと路面の接触状態の可視化技術
横浜ゴム(株) 網野直也
・ 走行時のトレッド温度がタイヤ特性に及ぼす影響
トヨタ自動車(株) 大久保良輔

問合せ先：(一社)日本ゴム協会 第 198 回ゴム技術シンポ
ジウム係
TEL: 03-3401-2957 FAX: 03-3401-4143
E-mail: nakagawa@srij.or.jp

(独)科学技術振興機構(JST) 戦略的創造研究推進事業(ERATO) 高原ソフト界面プロジェクト最終成果報告会

日 時：平成 26 年 1 月 31 日(金) 13:00~17:45
場 所：九州大学西新プラザ(福岡市早良区西新 2-16-23)
プログラム：
・ 総括より全体の成果説明 高原 淳
・ 界面分子設計グループ成果報告 小林元康
[特別講演] ソフトマターの乾燥
東京大学名誉教授 土井正男
・ 階層構造制御グループ成果報告 渡邊宏臣
[特別講演] 可逆的犠牲結合による高靱性・自己修復性ゲ
ルの創製 北海道大学教授 Jian Ping GONG
・ 先端界面構造物性解析グループ成果報告 陣内浩司
問合せ先：高原ソフト界面プロジェクト
(福岡市西区元岡 744)
TEL: 092-802-2541 FAX: 092-802-2544
E-mail: erato@muse.ifoc.kyushu-u.ac.jp